

---

## 日本NIE学会会報 第10号

---

日本NIE学会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台 79-2

国立大学法人横浜国立大学教育人間科学部

重松克也 研究室内

TEL/FAX 045-339-3433

E-mail ka-shige@ynu.ac.jp

---

## 日本NIE学会第5回大会のご案内 (二次案内)

日本NIE学会会長 影山清四郎

第5回大会実行委員長 寺尾 慎一

時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

日本NIE学会第5回大会を以下のとおり開催いたします。皆様お誘い合わせの上、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

### 1 大会テーマ 優れたNIE実践の理論化を目指して(2)

—NIEにおける“活用”とは—

### 2 期 日 平成20年11月15日(土)～16日(日)

第1日目 11月15日(土)

11:30 12:00 13:00 15:00 15:15 17:00 17:15 18:00 18:15 20:00

受付	理事会 交流会	シンポジウム	休憩 交流会	課題研究 I	休憩 交流会	総会	移動	懇親会
----	------------	--------	-----------	--------	-----------	----	----	-----

第2日目 11月16日(日)

8:30 9:00 10:30 10:45 12:30

受付 交流会	自由研究発表	休憩 交流会	課題研究 II
-----------	--------	-----------	---------

- 3 会場 福岡教育大学教育学部（教育実践総合センター・人文社会教棟）  
〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1  
懇親会会場 キャンパス内 カフェテリアレストラン フィオーレ
- 4 参加費 大会 2000円（学生・院生1000円，一般参加1000円）  
懇親会（第2食堂フィオーレ） 事前予約5000円／当日6000円  
（当日の対応は難しいために，この金額に設定させていただきますこと  
を何卒ご了承ください。）  
昼食（11/15分のみ弁当とお茶）1000円  
※ 大学周辺の食堂等が十分ではありません。是非，昼食の事前申し込み  
をご利用下さい。

5 後援 福岡県教育委員会・宗像市教育委員会

## 6 プログラム

### 第1日 11月15日（土）

理事会 12:00-13:00 【大II教室】

シンポジウム 13:00-15:00 【大I教室】  
テーマ 「NIEで“活用”の学力をどう高めるか」

コーディネータ	豊嶋 啓司（福岡教育大学）
指定討論者	枝元 一三（日本新聞教育文化財団）
シンポジスト	木村 宏之（飯塚市立伊岐須小学校）
	山田 明（自由ヶ丘高等学校）
	赤沢 早人（奈良教育大学）

課題研究I 15:15-17:00 【大I教室】  
テーマ「日本型NIEの理論化をめざして（3）  
～典型的な実践事例の分析を通して～」

コーディネータ	小原 友行（広島大学大学院）
提案者：小学校の実践から	岸尾 祐二（聖心女子学院初等科）
中学校の実践から	前野 勝彦（高松市立光洋中学校）
高等学校の実践から	堤 隆一郎（広島県立広高等学校）
実践事例の分析①	阪根 健二（鳴門教育大学）
実践事例の分析②	木村 博一（広島大学大学院）

総会 17:15-18:00

懇親会 18:15-20:00

**第2日 11月16日(日)**

自由研究発表 9:00-10:30

【第1会場 人文社会講義室】 司会 小田 迪夫(元・大阪教育大学)  
陣川 桂三(福岡大学)

- | 発表題目  | 発表者                           |
|---|-------------------------------|
| 1 多角的な価値判断力を育成する国語科でのNIE習<br>- 国語の教材と新聞教材とを接続した単元 - | 奈良<br>奈良女子大学附属中等教育学校<br>二田 貴広 |
| 2 「読解力」向上をめざした中学2年国語の授業<br>- じゃんけんで読み解く新聞記事 -       | 北海道 札幌市立月寒中学校<br>三上 久代        |
| 3 情報認識学習の構想と実践<br>- 帯単元「情報とは何かを考える」を中心に -           | 大阪 大阪市立昭和中学校<br>植田 恭子         |

【第2会場 教科教育特別演習室】

司会 有馬 進一(藤沢市立大庭中学校)

谷田部玲生(国立教育政策研究所教育課程研究センター基礎研究

部)

- | 発表題目  | 発表者   |
|---|---|
| 1 思考・判断・表現力の成長を保障するNIE社会<br>科授業<br>- 中学校単元「石見銀山の世界遺産逆転登録の秘<br>密を探ろう」の実践から - | 広島 広島大学大学院<br>小原 友行 田口 紘子<br>○中村 光佑 大國 沙輝子<br>兼原 昌大 後藤 賢次郎<br>藤岡 弘輝 池田 礼<br>中野 和子 |
| 2 新聞を活用し社会事象の読み解きに重点を置いた<br>社会科学習の構想<br>- 小学校社会科学習を事例に -                    | 京都<br>京都教育大学附属京都小学校<br>橋本 祥夫  |
| 3 NIEの源流としての新聞学習<br>- 1951年の読売新聞社による実験の分析 -                                 | 東京<br>東京都立小石川中等教育学校<br>稲井 達也  |

【第3会場 総合実習室】 司会 臼井 淑子(横須賀市立鴨居小学校)  
重松 克也(横浜国立大学)

- | 発表題目  | 発表者                   |
|---|-----------------------|
| 1 NIEにおける市民性の育成<br>- 社会的課題を追求する社会科・総合学習のとりく<br>み- | 大阪 岸和田市立土生中学校<br>中 善則 |
| 2 NIEを通じた社会認識形成<br>- 中日新聞社の新聞切り抜き作品づくりを例に-        | 愛知 愛知教育大学大学院<br>中嶋 利春 |
| 3 小学校におけるNIE実践(新聞に親しむ児童を育<br>てる)                  | 徳島 美馬市立芝坂小学校<br>上田 正純 |

- 【 第4会場 共通演習室A 】 司会 祇園 全禄 (元・弘前大学)  
平石 隆敏 (京都教育大学)
- 発表題目 発表者
- 1 専門職養成大学におけるNIE実践の試み 奈良 畿央大学  
- 専門職に必要な問題解決能力の育成をめざして- 西田 絵美
  - 2 大学教育と表現と新聞 (社会に目を開く新聞) 大阪 大阪経済大学  
樋口 克次
  - 3 大学教育におけるNIEの導入の試み 兵庫 近畿医療福祉大学  
- 福祉専門職育成教育における活用 - 勝田 吉彰

- 【 第5会場 視聴覚大演習室 】 司会 福田 徹 (武庫川女子大学)  
柳沢 伸司 (立命館大学)
- 発表題目 発表者
- 1 高等学校における進路指導の在り方と面接指導法 I 愛知 愛知県立岡崎商業高等学校  
- NIE教育と秘書教育を活用した効果的な面接 校〈同志社大学大学院総合政策  
指導法の一考察 - 研究科博士課程 (後期課程) 1  
年在学)  
服部 文彦
  - 2 新聞でエンカウンター 佐賀 唐津市立第五中学校  
光武 正夫
  - 3 小学校における「新聞づくり」活動の意義 奈良 奈良教育大学  
- 宗像市立大島小学校での実践を中心に - ○赤沢 早人  
福岡 福岡教育大学  
寺岡 聖豪

課題研究II 10:45-12:30 【 大I教室 】  
テーマ 「教科教育におけるNIEの在り方 -NIEの教科カリキュラム化を図る-」

コーディネータ 河野 智文 (福岡教育大学)  
提案者 社会科: 角田 将士 (立命館大学)  
算数: 田中 敬子 (宝塚市立すみれが丘小学校)  
理科: 花村 孝次郎 (宮若市立若宮中学校)

## 7 参加申込

※ 参加申込は、同封の「郵便振り込み」にて、下記宛にお願いいたします。

(申し込み〆切: 10月31日厳守)

ゆうちょ銀行 口座番号 01730-9-84525

口座名称 日本NIE学会第5回大会実行委員会

(カナ氏名 ニホンエヌアイイーカ` ッカイタ` イコ` カイタイカイシ` ッコウ)

## 8 発表資料部数等

大会当日に発表資料を配付する場合は、以下の部数をご用意ください。

シンポジウム 250部      課題研究発表 250部      自由研究発表 100部

シンポジウム、課題研究につきましては、事前に送付されますと事務局でお預かりします。その場合は、250部印刷したものを11月13日(必着)までに事務局に送付してください。当日持参されても結構です。自由研究発表につきましては、当日各自ご持参くださいますようお願い申し上げます。

## 9 会場・交通案内

### ● 福岡空港から JR 博多駅まで

<福岡市営地下鉄>      福岡空港 \_ 博多 (所要時間 5分ほど ¥250)

### ● JR 博多駅/JR 小倉駅から福岡教育大学まで

<JR 鹿児島本線>    JR 博多駅 (上り) \_JR 教育大前駅 (所要時間 37分 ¥630)

                         JR 小倉駅 (下り) \_JR 教育大前駅 (所要時間 35分 ¥630)

※JR 教育大前駅に快速は止まりません。準快速、普通をご利用下さい。

【JR 教育大前駅より】 徒歩：3分 (西門まで) / 10分 (会場まで)

アクセスガイド <http://www.fukuoka-edu.ac.jp/~kokusaik/page/access/intro.htm>

## ■ お問い合わせ ■

〒811-4192 宗像市赤間文教町1-1 福岡教育大学 教育学部 社会科教育講座内  
日本NIE学会第5回大会実行委員会事務局 豊 鳶 啓 司

Phone/Fax (0940)35-1291

E-mail [toyoshik@fukuoka-edu.ac.jp](mailto:toyoshik@fukuoka-edu.ac.jp)

## 日本NIE学会・日本新聞教育文化財団共催

## NIEシンポジウム報告

既にご案内しましたように6月28日の午後、日本プレスセンターを会場にして学会と日本新聞教育文化財団の共催によるシンポジウムが150名余りの参加者を得て開催されま

した。その概要をご報告いたします。

講演：「新学習指導要領の考え方と実践への期待」（文部科学省主任視学官 田中幸一）  
シンポジウムのテーマ：「ことばの力」を子どもたちに ～学習指導要領とN I Eの役割～

シンポジスト：明石要一（千葉大学）、小原友行（広島大学）、高木まさき（横浜国立大）

司会：赤池 幹（日本新聞教育文化財団）、影山清四郎（東京福祉大学）

3月に小・中学校の学習指導要領が告示されました。そこでは思考力・判断力・表現力の基となる言語活動を全ての教科に求めるとともに、食育・法や金融についての教育、情報モラルの教育など現代社会がかかえる多くの課題についての教育を求めています。新教育課程を展開するにあたって、N I Eこそがもっとも現実的で実際的ではないかと考え、移行措置に入る前にN I Eの必要性を共有するために、このシンポを企画しました。

講演：「新学習指導要領の考え方と実践への期待」（田中幸一）

指導要領の改訂の背景、改定の趣旨、主な改善事項を中心にご講演された。冒頭で「西暦2030年（平成42年）の日本の姿」を総人口や労働人口の減少と高齢者を中心に単独世帯の増加を中心に解明され、義務教育が修了する段階で「教養ある思慮深い市民」、「知的な消費者」の育成の必要性を説かれた。講演の最後に、今回の改訂は以上のことを視野に入れて「今までやってきたことにスポットをあてた」と従来の教育課程との連続性を指摘されたことも印象に残るものであった。

#### シンポジウム提案

明石要一氏は、新学習指導要領の言語活動の充実について、新聞読解力で重視すべきことは自己の関心の基づき情報収集し、質問力を育てることの重要性を提案された。サッカーでいえば「横パス」ではなく「シュートを打つ人間」の育成、「コツコツ型勉強」から「山張り勉強」への転換が必要であると、今後求められる教育の姿を解明された。あわせて、10分の朝読書の問題点や体験量の減少がもたらすマイナス面を解きながら、新聞等をとおして第三の大人に出会うことの重要性を述べられた。

小原友行氏は、「学習指導要領の改訂と『情報読解力』」と題して、全ての学習の土台となる「読解力」（リテラシー）概念を明らかにして、N I E学習で育てたい読解力（メディア・リテラシー）として、新聞をとおして①問題発見力（好奇心・探究心）、②情報受信力、③探求力（思考力）、④意思決定力（判断力）、⑤情報発信力（表現力）の5点を提案された。その上に立って、「情報からその背景をクリティカルに考える力」と「情報をクリエイティブに生み出す力」を育成する重要性とそのための学習活動を具体的に明らかにされた。

高木まさき氏は、知識基盤社会といわれる変化の激しい時代において、「リテラシー獲得のための」リテラシーが必要で、新聞はそれに関する情報、学び方、学び直しに関する情報が多く、そのため指導要領でも新聞に関する指導事項等が多く採用されていることを明らかにされた。なかでも、ことばや知識のシャワーを浴びることによって「だいたいの学力」（きいたことがある・少し知っている）を育てる重要性を指摘されたことは、多くの共感をよんだ。

どの提案も、大変刺激的でありその内容を伝えきれないのが残念だが、新教育課程への

2008年10月10日 発行

移行を前にしてN I Eの必要性を各参加者が考えるきっかけになったと思う。

(文責 影山清四郎)